

松阪市民病院呼吸器内科で気管支鏡検査を受けられた患者様・ご家族様へ

「診断的気管支鏡検査における PeriView FLEX 針による non-within the lesion
から within the lesion への radial EBUS 所見の改善率に関する後方視的検討」
について

(1) 研究の目的

この度、末梢肺病変に対し PeriView FLEX 針を用いて気管支鏡検査を実施しました患者様の過去の診療情報を用いて、PeriView FLEX 針を用いることによる診断率の向上の有無に関する研究を実施致します。近年、気管支鏡検査領域では末梢肺病変の診断に関して、バーチャル気管支鏡ナビゲーションやガイドシース併用気管支超音波ガイド下経気管支生検（EBUS-GS TBB）の開発により診断率が飛躍的に向上することが示されて実臨床でも用いられてきましたが、それでも診断が困難な症例を経験します。EBUS ガイド下の生検の診断率は、EBUS 所見における病変との位置関係に依存しており、EBUS プローブが病変内に位置している場合（Within the lesion と呼びます）は病変に良好に到達できており高い診断率が期待されますが、病変に接する場合（Adjacent to the lesion）や病変が描出できない場合（Invisible）は診断率が低いことが示されております。よって EBUS 所見が病変内に位置していない場合（non-within the lesion）は、Within the lesion に改善するような工夫が必要と考えます。PeriView FLEX 針を用いた末梢病変に対する経気管支針吸引は、気道壁を針で穿通し、新たな通路を形成することで EBUS プローブと病変との位置関係を改善し、Within the lesion に EBUS 所見を改善することで、病変へ正確に到達し、不十分な診断率を克服できる可能性があります。しかし、この手技における末梢肺病変の診断率および安全性に関するデータは限られております。

本研究ではこれまでに末梢肺病変に対し、PeriView FLEX 針を併用して気管支鏡検査を実施しました患者様の臨床背景、画像情報、検査法、病理結果、その後の臨床経過などを見直し検討することで、末梢肺病変に対し気管支鏡検査を受けられる多くの患者様に、より適切な気管支鏡検査を提供し、お役立てできるよう本研究を実施致します。なお、研究により皆様に新たに生じる御負担は一切なく、また、新たに検査を受けていただくこともございません。本研究は、皆様の過去の診療情報を解析することで、同じ検査を受けられる患者様に対する医療の改善のために役立つものと考え実施する所存でございます。何卒、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(2) 研究対象について

2020 年 1 月から 2024 年 12 月末までに、末梢肺病変に対する診断的気管支鏡で、EBUS 所見が Within the lesion に至らず、PeriView FLEX 針を併用して気管支鏡検査を実施した方が対象となります。

(3) プライバシーの保護について

この研究では個人を特定できるような情報は一切登録されません。

(4) 研究結果の公表について

研究結果は、医学研究雑誌や学会等で発表される予定です。

その場合も、個人を特定できる情報は一切含まれませんのでご安心ください。

※この調査対象となられる方で、ご自分あるいはご家族の情報を登録したくない場合は、下記連絡先までご連絡ください。なお、お申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。既に発表、公表されたデータの登録データからは削除できませんのでご了承ください。

【連絡先】

松阪市民病院 呼吸器センター 呼吸器内科

住所：〒515-8544 三重県松阪市殿町 1550 番地

電話：0598-23-1515（代表）

担当医師：坂口 直